

第五章 事業費

第一節 當初の計畫

本圳新設事業は當初大正九年度より大正十四年度に至る六箇年間に完成すべき豫定にて總工費を四千二百萬圓とし内一千二百萬圓は國庫より補助を受け三千萬圓を組合員の負擔とし工事施行期間中毎年度土地一甲當平均十圓宛を組合員より徴收し不足部分は起債に依りて充當し置き工事完成後十箇年々賦にて償還する方針を以て大正九年九月一日事業に著手せるものにして當初の事業費豫算額、事業費年度割額及事業資金に關する計畫は左の如し。

當初ノ事業費豫算額

區	分	豫	算	額	摘	要
工	水	源	工	費	三七、八七〇、〇〇〇	
工	幹	線	工	費	一四、二〇〇、〇〇〇	
工	支	線	工	費	九、三三〇、〇〇〇	
工	調	査	事	費	一三、七四〇、〇〇〇	
工	計	務	費	六〇〇、〇〇〇		
工	費				四、一三〇、〇〇〇	
工	費				四二、〇〇〇、〇〇〇	會議費ヲ含ム

當初ノ事業費年度割額

區分	總額	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
工事費	70,600,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,600,000
工事費	70,600,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,600,000
調査費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
事務費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
計	72,600,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,600,000

當初ノ事業資金ニ關スル計畫

年度別	前年度繰越金	國庫補助金	臨時賦課金	雜收入	借入金	合計
大正九年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
大正十年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
大正十一年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
大正十二年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
大正十三年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
大正十四年度	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	5,400,000
計	5,400,000	5,400,000	5,400,000	5,400,000	5,000,000	27,000,000

備考 事業資金タル借入金及其ノ利子ハ工事完成ノ翌年度ヨリ十箇年々賦ヲ以テ償還スルモノトシ、工事施行期間中臨時賦課金ヲ徴收スル十三萬五千甲ニ對シテハ一甲當平均三十圓三十錢、臨時賦課金ヲ徴收セザル一萬五千甲ニ對シテハ既往ニ於テ徴收シタル臨時賦課金ニ利子ヲ加ヘ一甲當平均四十三圓ヲ徴收スル計畫ニシテ、十箇年間ノ臨時賦課金ヲ合算スルトキハ十三萬五千甲ハ一甲當三百六十三圓、一萬五千甲ハ一甲當四百三十圓トナル計算ナリ

而して大正九年九月二十日第一回組合會の議決を経て事業費更正年度割額及大正九年度豫算を左の如く決定する
 共ニ補助金一千二百萬圓の下附方を臺灣總督に出願せり。

事業費更正年度割額

區分	總額	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
工事費	70,600,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,600,000
工事費	70,600,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,600,000
調査費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
事務費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
計	72,600,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,600,000

大正九年度歳入出豫算

臨時賦課金 歳入 一、五〇〇,〇〇〇・〇〇〇

雜入	六、〇〇〇、〇〇〇
國庫補助金	一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	二、七〇六、〇〇〇、〇〇〇
歲出	
坤圳新設費	二、六四八、九二〇、〇〇〇 ^四
會議費	六、〇〇〇、〇〇〇
徵收費	五〇、〇〇〇、〇〇〇
負債償還	一、〇八〇、〇〇〇
合計	二、七〇六、〇〇〇、〇〇〇

尋で補助金一千二百萬圓の下附出願に對しては大正九年十月十三日臺灣總督より命令條件附にて左の如く聽届けられたり。

指令第一四四八六號

臺南州公共埤圳官佃溪埤圳組合管理者

臺灣總督府土木局長 山形 要助

大正九年九月二十日附公共埤圳官佃溪埤圳新設工事費ノ内補助金一千二百萬圓下附願ノ件聽届ケ左記年割額ヲ下附

ス但シ別紙條件ヲ遵守スベシ

大正九年十月十三日

臺灣總督 男爵 田 健 治 郎 團

記

金 百二十萬圓	大正九年度
金 二百萬圓	大正十年度
金 二百二十萬圓	大正十一年度
金 二百二十萬圓	大正十二年度
金 二百二十萬圓	大正十三年度
金 二百二十萬圓	大正十四年度

命令條件

- 一、補助金ハ本計畫工事以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ズ
- 二、補助金年度割額ハ政府ノ都合ニ依リ變更スル事アルベシ
- 一、工事ハ大正九年八月二十日附埤圳新設願ノ設計書ニ依リ施行スベシ
- 一、工事ハ大正十五年三月三十一日限り竣功セシムベシ
- 一、工事ノ設計又ハ竣功期限ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

一、工事完成ノ見込ナシト認ムルトキハ補助金ノ下附ヲ取消シ既ニ下附セル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
 本命令ノ各號ニ違背シタルトキ亦同ジ

一、工事期間中毎年度ノ收支計算ハ翌年度五月三十一日迄ニ臺灣總督ニ報告シ其計算書ニハ工事ノ進行明細書ヲ添付スベシ
 一、水利ヲ受クベキ官租地ニハ本工費ヲ負擔セシメザルコト

一、臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ工事又ハ會計ノ監査ヲ爲スコトアルベシ此ノ場合ニ於テ必要ナル書類ノ査閲ヲ求メ又ハ
 提出ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

大正九年度 斯くて前記の事業費年度割額及大正九年度豫算に基きて事業に著手し先づ本圳全事業區域の土地
 高低測量及會文、官田、濁水三溪の流量調査を開始するに共に準備工事とも云ふべき番子田烏山頭間並官田大内庄
 間の工事材料運搬用鐵道線路の建設、嘉義烏山頭に於ける宿舍倉庫等の建築臺南水道水源地上發電所より烏山頭
 に至る送電線路架設工事濁水發電所建設工事及び濁水溪取入口水門濁幹線導水路掘鑿其の他の工事に著手せしも大
 正九年度は僅かに半期間に過ぎざりしが故に是等諸工事の多くは大正十年度に繰越したりしが工費用機械器具購入
 代金其の他年度内支拂を要するもの豫算を超過するに至りたるを以て大正十年二月二十三日組合會の議決を経て大
 正九年度豫算に變更を加へたり。

大正九年度歳入出變更豫算並決算大要左の如し。

大正九年度歳入出變更豫算

一、歳入

水租及費用	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇
雜入	一三、七五〇・〇〇
借入金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇
補助金受入	一、二〇〇、〇〇〇・〇〇
合計	三、七一三、七五〇・〇〇

歳出

埤圳新設費	三、六四八、九二〇・〇〇
會議費	六、〇〇〇・〇〇
徵收費	五〇、〇〇〇・〇〇
負債又ハ一時借入金償還	八、八三〇・〇〇
合計	三、七一三、七五〇・〇〇

大正九年度歳入出決算

歳入

水租及費用	一、三三〇、六一〇・一〇〇
雜入	一四、七三三・四八〇

借入金	1,000,000.00
補助金受入	1,200,000.00
合計	3,535,343.58
歳出	
埤圳新設費	2,240,884.19
會議費	3,352.70
徵收費	50,000.00
負債又ハ一時借入金償還	45,703.24
合計	2,339,940.13

則ち大正九年度に於ては工事の一部と共に百十九萬五千四百三圓四十五錢を翌年度に繰越したり。

本年度に於ける臨時賦課金は當初の計畫に基き一甲當十圓宛を徵收せるものにして調定額百三十四萬八千八百十二圓八十五錢に對し年度未迄の收入濟額は百三十二萬六百十圓十錢收入未濟額は二萬八千二百二圓七十五錢收入歩合九割七分九厘にして當初より頗る良好なる收入成績を得たり。

大正九年度に於て借入るべき事業資金百萬圓は年利九分を以て臺灣銀行より之を借入れたり。

大正十年度 本年度に於ては事業費年度割額に些か修正を加へ臨時賦課金は本圳全事業區域十五萬甲の内工事

中何等の収益なき荒蕪地原野其の他の土地一萬五千甲を除き工事中相當收穫ある田畑養魚池其の他の土地十三萬五千甲に對して一甲當十圓宛を賦課する事とし大正十年二月二十三日組合會の議決を経て大正十年度歳入出豫算を左の如く編成せり。

大正十年度歳入出豫算

歳入	
水租及費用	1,350,000.00
雜入	47,520.00
借入金	6,836,363.00
補助金受入	2,000,000.00
合計	10,233,883.00
歳出	
埤圳新設費	9,639,080.00
會議費	6,000.00
徵收費	183,544.00
負債又ハ一時借入金償還	405,259.00

合計 一〇、三三三、八八三、〇〇〇

大正十年度豫算に於ては大正十年度、大正十一年度及び大正十二年度の事業費年度割額に多少の變更を加へたり。即ち左の如し。

區分	總額						
	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	
工 事 費	三、七〇〇、〇〇〇	八、九〇〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	
調 査 費	三、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
會 務 費	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
合 計	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	

外ニ 徴收費 自大正九年度 七六六、二四八圓 至大正十四年度 七六六、二四八圓

前記の如く大正十年度臨時賦課金は前年度と同じく一甲當十圓宛徴收の豫定を以て豫算を編成せしも財界不況金融梗塞の析柄農家の經濟狀態より推測して一甲當十圓宛の徴收は一般組合員の苦痛とする所なるに鑑み本年度の工事費及事務費中より約十六萬圓を捻出し之に前年度繰越金三十萬圓を加へ合計四十六萬圓を臨時賦課金として徴收すべし百三十五萬圓の内に振當て差引八十九萬圓を組合員に賦課する事とし大正十年八月五日臨時組合會の議決を

經て本年度に限り特に一甲當六圓五十錢宛を徴收する事に決定し大正十一年二月二十五日の組合會に於て左の如く大正十年度豫算の編成替を爲せり。

大正十年度歳入出更正豫算

水 租 及 費 用	九〇五、七〇二、七五〇
雜 入	四七、五二〇、〇〇〇
前 年 度 繰 越 金	一、一九五、四〇三、四五〇
補 助 金 受 入	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
借 入 金	六、八三六、三六三、〇〇〇
合 計	一〇、九八四、九八九、二〇〇
歲 出	
埤 圳 新 設 費	一〇、二八〇、三四八、〇七〇
會 議 費	六、〇〇〇、〇〇〇
徴 收 費	一八三、五四四、〇〇〇
負債又ハ一時借入金償還	四〇五、二五九、〇〇〇

翌下年度繰入金
 合計 一〇九、八三八・二三〇
 一〇、九八四、九八九・二〇〇

大正十年度決算は左の如し。

大正十年度歳入出決算

歳入	歳出
水租及費用 八八一、六八七・九七〇	坤圳新設費 六、六六七、七一六・〇七〇
雑入 八三、八八四・三二〇	會議費 三、五三〇・五六〇
前年度繰趣金 一、一九五、四〇三・四五〇	徵收費 一三一、四一三・六四〇
補助金受入 二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	
負債 三、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	
合計 七、六六〇、九七五・七四〇	

負債 償還 三四二、九四五・一六〇
 合計 七、一四五、六〇五・四三〇

則ち大正十年度に於ては五十一萬五千三百七十圓三十一錢を翌年度に繰越したり。

大正十年度臨時賦課金一甲當六圓五十錢は前期分三圓を大正十年九月二十日後期分三圓五十錢を大正十一年二月二十五日即ち前後期共に地租と同日を以て納期限として徵收する事とし告知書發行と同時に低減の理由を説明したるに一般に時宜に適したる措置なりとして好感を以て迎へられ調定額八十七萬八千五百九十三圓八十七錢に對し年度末迄の收入濟額八十七萬二千七百八十八圓一錢收入未濟額五千八百五圓八十六錢にして收入歩合九割九分三厘てふ好成绩を挙げたり。

國庫補助金大正十年度年度割額二百萬圓は年度初に於て下附を受けたり。

大正十年度事業資金は工事施行の實況に隨ひ資金の所要に照し三百五十萬圓借入る、事とし三百萬圓は年利九分を以て臺灣銀行より借入れ五十萬圓は年利六分五厘にて産業獎勵資金の貸出を仰ぎたりしが是等資金の調達に關しては臺灣銀行の援助に依り必要に應じ隨時借入を爲し頗る順調に運用するを得たり。本年度末に於ける借入金現在高左の如し。

大正十年度末借入金現在高

區分	借入高	摘要
臺灣銀行	四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	

産業獎勵資金	五〇〇,〇〇〇,〇〇〇
合計	四,五〇〇,〇〇〇,〇〇〇

大正十一年度 本年度に於ては財界の趨勢に鑑み工事の性質に其の緩急を考慮し努めて繰越の方針を執り臨時賦課金は組合會の決議を経て前年度賦課額に五十錢を増して一甲當七圓宛徴收の事として豫算を編成し工事と共に前年度より繰越したる五十一萬五千三百七十圓三十一錢を追加計上して經理せるものにして大正十一年度歳入出豫算並決算大要左の如し。

大正十一年度歳入出豫算並決算

歳入

科目	豫算額	決算額
水租及費用	九五六,二四三・七六〇	九四四,九七五・五五〇
雜入	三八,〇七八・八五〇	六七,八七二・七六〇
前年度繰越金	五五,三七〇・三一〇	五五,三七〇・三一〇
補助金受入	二,二〇〇,〇〇〇・〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇・〇〇〇
負債	八,九一一,三六三・〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇・〇〇〇
合計	一,二,六二一,〇五五・九二〇	五,三二八,二二八・六二〇

歳出

科目	豫算額	決算額
埤圳新設費	一一,四八〇,七三二・〇〇〇	四,三九三,六三六・二四〇
會議費	六,〇〇〇・〇〇〇	一,九八〇・二二〇
徵收費	一六六,六三六・〇〇〇	一一八,九五四・八七〇
負債償還	八一四,二九四・八二〇	二七五,六八一・六六〇
翌年度繰入金	一五三,三九三・一〇〇	五二七,九六五・六三〇
合計	一,二,六二一,〇五五・九二〇	五,三二八,二二八・六二〇

大正十一年度臨時賦課金一甲當七圓は前期大正十一年九月後期大正十二年二月の二回に各三圓五十錢宛を徴收せしが前半期は一般財界益々不況に陥り金融愈々梗塞を告ぐるの状態にありて金策に窮する者多く爲に徴收成績を憂慮し納期前より鋭意督勵に努めたる結果豫想以上の成績を収むるを得たり又後半期に至りても依然財界逼迫の状況なりしが糖價幾分活氣を呈し金融稍恢復の兆ありて一般農民多少の愁眉を開くに至りたる感ありしも固より一時の景氣にして健實なるものにあらずるを以て前半期同様極力督勵に努めたる結果調定額九十四萬七千八百七十六圓五十五錢に對し年度末迄の收入濟額九十四萬四千七百十九圓六十一錢收入未濟額三千四百四十八圓十七錢缺損額八圓七十七錢にして收入歩合九割九分六厘の好成績を収むるを得たり。大正九年度以降大正十一年度に至る各年度末に於

ける収入状況左の如し。

年 度 別	賦 課 額	調 定 額	收 入 済 額	缺 損 額	收 入 未 済 額	收 入 歩 合
大 正 九 年 度	一 甲 當 十 圓	一 三 八 八 三 金	一 三 〇 六 一 〇 円	—	二 八 二 〇 七 五 円	九 七 九
大 正 十 年 度	一 甲 當 六 圓 五 十 錢	六 六 五 三 三 金	六 七 七 六 八 〇 円	—	五 八 五 六 六 金	九 九 三
大 正 十 一 年 度	一 甲 當 七 圓	九 〇 八 六 三 金	九 〇 七 二 九 六 円	八 七 七	三 一 四 六 七 金	九 九 六

國庫補助金大正十一年度年度割額二百二十萬圓は大正十一年五月に於て下附を受けたり。

大正十一年度事業資金は財界の状況に照し豫算中の一部起債を見合せ事業實施に随ひ必要に應じて百六十萬圓を臺灣銀行より年利九分にて借入れたたり。本年度末に於ける借入金現在高左の如し。

大正十一年度末借入金現在高

區 分	借 入 高	償 還 高	現 在 高
日 本 勸 業 銀 行	五〇〇,〇〇〇 円	二二,八〇〇 円	四七七,二〇〇 円
臺 灣 銀 行	五,六〇〇,〇〇〇	—	五,六〇〇,〇〇〇
計	六,一〇〇,〇〇〇	二二,八〇〇	六,〇七七,二〇〇

備考 大正十年度ニ於テ借入タル産業獎勵資金五十萬圓ハ大正十一年度以降大正二十四年度ニ至ル十四箇年賦ニテ償還ス

大正十一年度 本年度に於ては事業費年度割額に基き専ら緊縮の方針を以て經理する豫定なりしも國庫補助金

を後述の如く政府財政の都合に依り年度割額の一部變更を命ぜられたるのみならず財界の趨勢は依然として不況の状態を持續し容易に之が恢復の曙光を認むる能はざりしを以て事業費年度割額を別項の如く更正し臨時賦課金は組合員の負擔力を考慮して前年度賦課額より二圓を減じ一甲當五圓宛を賦課徴收することとし、し工事の將來に鑑み主力を主要工事に傾注する方針のみに大正十二年度豫算を左の如く編成し極力事業の進捗に努めたり。

大正十二年度歳入出豫算

歳 入	歳 出
賦 課 金	六 七 五、〇 〇 〇 〇 〇 円
雜 入	三 一、四 七 五、〇 〇 〇
補 助 金	一、五 〇 〇、〇 〇 〇 〇 〇
負 債	四、八 七 〇、〇 〇 〇 〇 〇
合 計	七、〇 七 六、四 七 五、〇 〇 〇
埠 刈 新 設 費	六、〇 九 〇、七 二 一、〇 〇 〇
會 議 費	六、〇 〇 〇、〇 〇 〇
徵 收 費	一 五 一、一 九 三、〇 〇 〇

負債償還
 合計 八二八、五六一、〇〇〇
 七、〇七六、四七五、〇〇〇

大正十二年豫算に於ては大正九年度及大正十年年度の年度割額を實際に支出したる決算額に更正し大正十二年度以降の年度割額を左の如く變更せり。

區分	總額	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度
工費	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
工事費	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
調査費	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
事務費	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
會議費	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇	三〇六、〇〇〇
合計	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

大正十二年度以降の國庫補助金年度割額は政府財政の都合に依り左の通り變更せらる、旨大正十一年十二月二十一日臺灣總督府内務局長より内達ありたり。

金 百五十萬圓 大正十二年度

金 百五十萬圓 大正十三年度
 金 二百二十萬圓 大正十四年度
 金 百四十萬圓 大正十五年度

國庫補助金大正十二年度年度割額百五十萬圓は大正十二年五月に於て下附を受けたり。

前述の如く本圳新設事業は大正九年九月著工以來稍々順調に進捗しつ、ありしも大正十二年九月關東地方に於て彼の古今未曾有の大震災突發しさなきだに不況なりし我が財界に異常の大變調を來し延ては本組合事業資金の調達上に支障を生じ豫定計畫通り事業を遂行すること至難の事態に逢著せるを以て工事の一部繰延べを行ふと共に事務費其の他に極度の節約を加へて之を工事費に充當すべき計畫を樹て大正十二年九月十三日臨時組合會の議決を経て事業資金の調達可能額を限度として更正豫算を編成し其の筋の許可を得て之を施行せり。大正十二年度歳入出更正豫算並決算大要左の如し。

大正十二年度歳入出更正豫算並決算

歳入

科	目	豫算額	決算額
賦課	課金	六八五、九九〇・〇五〇	六九九、七六三・八六〇
雜入	入金	四〇、五〇三・八六〇	五一、七一五・六六〇
前年度繰越	繰入金	五二七、九六五・六三〇	五二七、九六五・六三〇

補助金	1,500,000.00	1,500,000.00
負債	1,736,000.00	1,736,000.00
合計	4,490,459.54	4,515,445.15

歳出

科 目	豫 算 額	決 算 額
埠 刈 新 設 費	3,670,947.42	3,210,108.47
會 議 費	6,000.00	2,652.47
徵 收 費	1,365,557.00	1,133,978.51
負 債 償 還 金	637,055.12	622,222.97
翌 年 度 繰 入 金	39,900.00	566,482.73
合 計	4,490,459.54	4,515,445.15

大正十二年度臨時賦課金一甲當五圓は前期大正十二年九月後期大正十三年二月の二回に各一圓五十錢宛を徴收せしが財界不況なりしのみならず夏季近年稀なる旱害は農作物の收穫に至大の影響を與へ農民の困憊甚しく且つ地方金融機關たる銀行信用組合等は貸金の回収に努むるに共に貸出を警戒し金融逼迫の状態にありしを以て之が収入成績を憂慮し前後期共納期前より特に徴收督勵に努力せるも調定額六十七萬九千四百四十七圓十錢に對し年度末迄の收

入濟額六十六萬七千三百八十六圓三十四錢收入未濟額一萬一千七百六十圓七十六錢收入歩合九割七分にして收入頗る不成績たりしなり。尙中途無收穫地より有收穫地に變換せる土地に對して有收穫地の負擔し來れる臨時賦課金の額に相當するものを加入金として本年度より徴收すること、せり。大正九年度以降大正十二年度に至る各年度末に於ける臨時賦課金及加入金の収入狀況左の如し。

年 度 別	賦 課 額	調 定 額	收 入 濟 額	缺 損 額	收 入 未 濟 額	收 入 歩 合
大 正 九 年 度	一甲當十圓	1,388,835.40	1,302,610.00	86,225.40	263,025.40	97.9
大 正 十 年 度	一甲當六圓五十錢	875,538.70	875,768.00	229.30	580,568.00	99.3
大 正 十 一 年 度	一甲當七圓	927,876.50	927,729.20	147.30	3,247.50	99.8
大 正 十 二 年 度	一甲當五圓	675,470.00	675,363.00	107.00	2,760.00	99.8
	外ニ加入金	53,566.00	407,666.00		10,490.00	

備考 各年度ノ收入未濟額ハ翌年度へ繰越シ夫々整理中ニ屬ス

大正十二年度事業資金は四百八十七萬圓を年利九分を以て臺灣銀行又は日本勸業銀行より借入る、豫定なりしも大正十二年度豫算更正の結果百七十三萬六千圓を年利九分を以て臺灣銀行より借入れた。本年度末に於ける借入金現在高左の如し。

大正十二年度未借入金現在高

區分	借入高	償還高	現在高
日本勸業銀行	五〇〇,〇〇〇・〇〇〇 ^円	四七,一〇六 ^円	四五二,八九四 ^円
臺灣銀行	七,三三六,〇〇〇・〇〇〇	四七,一〇六 ^円	七,三三六,〇〇〇
計	七,八三六,〇〇〇・〇〇〇	四七,二一六	七,七八八,八九四

第二節 第一次改訂計畫

大正十三年度 大正十二年九月一日の關東地方大震災は實に古今未有の大事變にして之がため不況なりし我が財界は急激なる大恐慌を來したるのみならず其の後に於ても政界の變動相踵で起り大正十三年に入るも尙ほ財界の安定を見るに至らず金融極度に梗塞し一般事業界は全く行き詰りの状態を呈し本圳新設事業も當初の豫定期間たる六箇年間に竣功することは到底不可能の状態に陥りたるを以て之が事業達成に關する根本的計畫の樹直し策を講ずるに共に大正十三年度に於ては事業資金の關係を考慮し取り敢へず國庫補助金及臨時賦課金を以て工事の一部を繼續施行することとし大正十三年二月二十七日組合會の議決を経て左の如く大正十三年度歳入出豫算を編成せり。

大正十三年度歳入出豫算

歳入

賦課金	七〇二,五二八・五〇〇
雜入金	三〇,八五九・五〇〇
補助金	一,五〇〇,〇〇〇・〇〇〇
負債	八六四,六〇〇・〇〇〇
合計	三,〇九七,九八八・〇〇〇
歳出	
埤圳新設費	二,二五六,九四五 ^円 ・〇〇〇
會議費	六,〇〇〇・〇〇〇
徵收費	八五,五五〇・〇〇〇
負債償還	七四九,四九三・〇〇〇
合計	三,〇九七,九八八・〇〇〇

然して本組合は前記の如く極度の事業資金調達難に陥り豫定の工程を進むる能はざるに至りたるを以て爾來之が新生面打開策に就き種々講究し來りしが大正十三年五月特に當局の指示を仰ぎて工事施行期間を四箇年延長して十箇年繼續事業とし總工費を四千八百十六萬三千五百圓に増額せむとする改訂計畫を樹て同月二十九日の組合會に附議し其の議決を経て之が認可を臺灣總督に申請せり。之を便宜第一次改訂計畫と稱す。